

彙 報

会 長 梅 田 博 之

平成6年度第1回常任委員会

日 時：平成6年4月16日（土）午後1時～5時半

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所第1研修室

出席者：梅田博之（会長），坂本比奈子（事務局長），荻野綱男，角田太作，長野泰彦，林 徹，湯川恭敏，吉田和彦

オブザーバー：宮岡伯人（編集委員長），鈴木重幸（大会運営委員長），大野仁美（事務局長補佐）

議 事

（1）平成5年度決算について

決算報告・監査報告があった。

（2）平成6年度予算について

予算案を審議し，具体案を作成した。

（3）第108回大会（平成6年度春季大会）について

講演者・研究発表者などの大会の詳細を決め，プログラムを決定した。

（4）第109回大会（平成6年度秋季大会）の開催校について

名桜大学（沖縄県名護市）で11月5日（土）・6日（日）の両日に行われる予定である。

（5）前執行部からの引き継ぎ事項について

〈あ〉事務局の仕事について

前年度まで三省堂学会事務センター，三省堂出版局高橋氏および入貝氏にお願いしていた業務については中西印刷に委託することになった。

〈い〉財政上の改善すべきと考えられる点の検討について

荻野・角田両氏が試案を作ることになった。

〈5〉 選挙の時期について

吉田和彦氏から、現行のままでは、選挙後事務局等の移動の時間が短すぎるとの意見が出された。

(6) その他

事務局長補佐として大野仁美・副島昭夫（麗澤大学）の両氏に協力をお願いすることにした。

平成6年度第1回委員会

日 時：平成6年6月11日（土）午前10時～午後1時

場 所：横浜国立大学 教育学部 講義棟7号館7-212教室

出席者：梅田博之（会長）、坂本比奈子（事務局長）、池上二良、上野善道、荻野綱男、奥津敬一郎、尾上圭介、寛 寿雄、影山太郎、菊池康人、国広哲弥、小泉 保、坂本 勉、崎山 理、佐藤昭裕、清水克正、城生 佰太郎、杉藤美代子、田村すす子、柘植洋一、土田 滋、角田太作、徳川宗賢、西田龍男、西光義弘、林 栄一、原口庄輔、松本克巳、宮岡伯人（編集委員長）、村崎恭子、吉田和彦、吉田 豊（以上32名）

委任状：30名

オブザーバー：近藤達夫（会計監査）、大野仁美、副島昭夫（事務局長補佐）

議 事

議事に先立って、会長より新任の挨拶および事務局長坂本比奈子、事務局長補佐大野仁美、副島昭夫各氏の紹介があった。

(1) 平成6年度第1回常任委員会の報告があった。

(2) 平成5年度の決算報告があり、質疑のうえ了承された。（別表1参照）

これは、1994年4月16日、会計監査委員土田滋・上野善道両氏より適正であると認められたものである。また、松本克巳前会長より、役員48名の方々から本学会に寄せられた寄付に対し、感謝の意が述べられた。

(3) 平成6年度の予算を決定した。（別表2参照）

(4) 選挙管理委員の選挙が行われ、委員会に出席者中の旧選挙管理委員により開票が行なわれた。その結果、次の各氏が選挙管理委員に選出された：

菊池康人・萩野綱男・田村すず子・村崎恭子・徳川宗賢・井出祥子・井上史雄・松本克己。次点者は国広哲弥氏であった。

- (5) 第109回大会（平成6年度秋季大会）については、11月5日（土）・6日（日）に名桜大学（沖縄県）で行われることが決定された。大会運営委員長は上村幸雄氏（琉球大学）である。
- (6) 今後、日本学術会議から、語学文学研究連絡委員および東洋学研究連絡委員選出の要請があった場合、それぞれ日本学術会議会員候補者を以て当てることとした。
- (7) 編集委員長・宮岡伯人氏から、『言語研究』の編集方針について説明があった。
- (8) その他、文部省科学研究費補助金『研究成果公開促進費』中の「研究成果公开发表（B）」についての通知、『学術情報センター（NACSIS）サービス案内』についての資料を回覧した。

〔別表1〕 平成5年度 日本言語学会決算

自 平成5年4月 至 平成6年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	12,161,627	1 刊 行 費	5,291,360
C 雑 誌 売 上	1,431,770	2 編 集 費	250,000
D 文 部 省 補 助 金	520,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	3,311,679
E 選 挙 関 係 費 (積立)	700,000	4 大 会 関 係 費	586,787
F 預 金 利 息	11,400	5 委 員 会 費	100,000
G 役 員 寄 付 金	720,000	6 常 任 委 員 会 費	200,649
H 雑 収 入	540,873	7 C I P L 負 担 金	80,000
		8 選 挙 関 係 費	606,261
		9 名 簿 作 成 費	1,294,212
		10 通 信 費	181,456
		11 事 務 費	457,952
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	960,000
		14 予 備 費	0
		15 雑 費	0
		16 事 務 局 移 転 関 係 費	521,117
収 入 合 計	16,085,670	支 出 合 計	13,841,473
A 前 期 繰 越	671,335	次 期 繰 越	2,915,532
計	16,757,005	計	16,757,005

◇収入内訳

G 役員寄付金

48名・72口 合計	720,000
------------	---------

H 雑収入

102号特殊活字・図版 投稿者負担分	87,870
103号 // //	190,870
104号 // //	17,022
103号抜刷増刷代	7,200
104号 //	16,800
学会会員名簿代	20,000
名簿シール使用料	20,000
大会出店料	60,000
会員名簿広告掲載料	120,000
会員有志寄付金	1,111
合 計	540,873

◇支出内訳

1. 刊行費

	104号 (226p.)	105号 (194p.)	計
割付・校正料	372,600	320,760	693,360
印 刷 費	2,498,000	2,100,000	4,598,000
計	2,870,600	2,420,760	5,291,360

3. 学会事務センター委託費

業務委託費	1,922,000
発送料, コピー代, 通信費等	1,389,679
計	3,311,679

4. 大会関係費

	第106回	第107回	計
プログラム版下作成料	82,300	0	82,300
プログラム印刷代	69,525	61,738	131,263
出欠葉書印刷費	35,020	28,325	63,345
大会費	159,879	150,000	309,879
計	346,724	240,063	586,787

8. 選挙関係費

選挙人名簿作成経費	37,400
選挙関係書類印刷費	251,587
投票用紙等関係書類発送郵税	304,134
選挙管理委員会費	13,140
合計	606,261

16. 事務局移転関係費

移転通知、本・備品等発送経費	41,773
事務引継ぎ会議費・交通費	148,880
移転業務手伝い謝礼	20,000
中西印刷（株）扱い事務費（税込）	219,412
学会事務センター扱い会員データ引継ぎ経費	91,052
合計	521,117

〔別表2〕 平成6年度 日本言語学会予算

自 平成6年4月 至 平成7年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	11,900,000	1 刊 行 費	5,500,000
C 雑 誌 売 上	200,000	2 発 送 費	300,000
D 文 部 省 補 助 金	520,000	3 編 集 費	500,000
E 預 金 金 利	10,000	4 事 務 委 託 費	3,400,000
F 雑 収 入	40,000	5 大 会 関 係 費	800,000
		6 委 員 会 費	200,000
		7 常 任 委 員 会 費	350,000
		8 C I P L 負 担 金	100,000 ⁽¹⁾
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 名 簿 作 成 費	0
		11 通 信 費	500,000
		12 事 務 局 費	600,000
		13 消 耗 品 費	100,000
		14 予 備 費	1,600,000
		15 前 年 度 分 謝 金	930,000 ⁽²⁾
収 入 合 計	12,670,000	16 三 省 堂 書 店 への 支 払	550,000
A 前 期 繰 越	2,915,532	17 雑 費	155,532
計	15,585,532	計	15,585,532

注 (1). C I P L 負 担 金 増 額 は, C I P L 事 務 局 長 より C I P L 日 本 委 員 柴 田 武 氏 への 分 担 金 増 額 要 請 に 応 えた も の.

注 (2). 三 省 堂 高 橋 昭 氏 に, 長 年 に わ た る 『 言 語 研 究 』 編 集 等 の ご 協 力 に 対 し 謝 礼 を お 贈 り し た と ころ ご 辞 退 さ れ, 全 額 言 語 学 会 に ご 寄 付 く だ さ っ た.

第108回大会

期 日 1994年6月11日(土)～12日(日)

会 場 横浜国立大学

第1日(6月11日)

講演会 午後1時30分～5時

開会の辞

会長就任講演 韓国語の母音について 梅田博之

公開講演 言語の基本的な単位としての単語をめぐって 鈴木重幸
—日本語研究のたちばから—

会員懇親会 午後6時30分～8時

第2日(6月12日)

研究発表 午前10時～12時20分

◦A 会 場

(A 1) 10:00～ 日本語における後置詞要素について 青木 佐枝子

(A 2) 10:30～ 日本語の日常会話に見られる反復的発話 高木 智世
—相互作用的側面の考察—

(A 3) 11:20～ 「てしまう」の本来的機能 西川 真理子

(A 4) 11:50～ 「語彙性」とは何か：日本語複合述語の 松本 曜
分析から

◦B 会 場

(B 1) 10:00～ It-clefts の Exclusiveness 三 田 薫
—英語分裂文の理論の再構築—

(B 2) 10:30～ 束縛変項代名詞と一般化束縛理論 北 峯 裕 士

(B 3) 11:20～ 連鎖形成のアルゴリズムと表示の経済性 小林 敏 彦

(B 4) 11:50～ 文処理モデルと難解文 時 本 真 吾

◦C 会 場

(C 1) 10:00～ 地理的及び系統的に見た世界諸言語の語 山 本 秀 樹
順分布

(C 2) 10:30～ チベット語ラサ方言の助動詞 Chun の意味 星 泉

- (C 3) 11:20~ 空間認知とオランダ語における〈起点〉の表現 川村 三喜男
- (C 4) 11:50~ ルヴァレ語の所有代名詞の呼応 (急病のためキャンセル) 湯川 恭 敏

研究発表 午後1時40分~4時30分

◦A 会場

- (A 5) 1:40~ 日本語形容表現の段階性と意志制御性 加藤 重 広
—いわゆる形容動詞の語幹を中心に—
- (A 6) 2:10~ 客観的/主観的モダリティと疑問化について 吉良 文 孝
- (A 7) 3:00~ 日本語の移動動詞の格標示 三宅 知 宏
—語彙概念構造と統語構造をめぐって—
- (A 8) 3:30~ 日本語の「がーの」交替と格理論 岩崎 康 文
- (A 9) 4:00~ 日本語における非対格仮説 大塚 達 雄

◦B 会場

- (B 5) 1:40~ 照合理論と随意的移動 平田 一 郎
- (B 6) 2:10~ A Minimalist Approach to Relative Clause Extraposition 山 田 誠
- (B 7) 3:00~ Complementizer Alternation and the Shortest Movement Principle 中村 良 夫
- (B 8) 3:30~ Binding Theory Revised: Facing Evans' Challenge C. Tancredi
(家庭事情によりキャンセル)
- (B 9) 4:00~ Stage/Individual-level Nouns 遠藤 喜 雄

◦C 会場

- (C 5) 1:40~ 日本語と韓国語の家族関係の聞き手敬語の対照研究 荻野 綱 男
金 東 俊
梅田 博 之
羅 聖 淑

盧 顯 松

(C 6) 2:10~ 所有関係からみた受け身文
—「NP₁はNP₂がVPされる」を中心に
川 添 一 郎

(C 7) 3:00~ The Syntactic Position of a By-phrase in
the Passive 松 原 史 典

(C 8) 3:30~ 「迷惑の受身」・「所有の受身」と「迷惑
の与格」「所有の与格」
—日本語と印欧語における「迷惑」と
「所有」の意味の出处をもとめて—
柴 谷 方 良

(C 9) 4:00~ 日本語の中間態 国 広 哲 弥
閉会の辞

◇ 1994年1月26日、1993年度朝日賞が、本学会会員の西田龍男氏に、西夏文字解読など言語学研究の業績に対して贈られた。

◇ 1994年4月15日、中西印刷株式会社会長中西亮氏が亡くなられた。本学会から花輪と弔電をお供えした。